

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号について（送付）



与論町のサトウキビほ場において、本県で初めてヒゲマダライナゴの発生・被害が認められたことから、特殊報第1号を発表したので送付します。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jpnp.n.e.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

1 病害虫名 ヒゲマダライナゴ *Hieroglyphus annulicornis* (Shiraki)

2 発生作物名 サトウキビ *Saccharum officinarum* L.

3 発生確認及び被害状況

令和5年6月、与論町の一部のサトウキビほ場でイナゴが多発生し、葉の食害が認められた。門司植物防疫所名瀬支所に本虫の同定を依頼した結果、ヒゲマダライナゴと確認された。本県では、本種の発生・被害は初確認である。

なお、現時点では県内他地域での発生・被害は確認していない。

4 本種の特徴

(1) 被害

成虫、幼虫ともに葉を食害する。多発すると葉は中肋を残して食害され、被害を及ぼす（図1、2）。

(2) 形態

成虫は体長40～70mmの大型のバッタであり、触角は黒白のまだらで、体色は淡緑色で光沢があり、前胸背の横溝が黒く明瞭である（図3）。幼虫の体色は、齢期が進むにつれて、薄褐色から薄緑色（図4）に変化する。

(3) 寄主植物

サトウキビ、イネ科の牧草・雑草など

(4) 生態

発生は年一化性である。幼虫は5月から、成虫は6月から10月に出現する。成虫、幼虫とも群れる習性があり、タイワンツチイナゴやトノサマバッタに比べて飛翔能力が劣るため、局所的に多発生することが多い。卵期に干ばつが続くと多発しやすい。

(5) 分布

国内では宮古島、八重山群島、海外では台湾、中国、ベトナム、タイ、インドに分布する。

5 防除対策

- (1) 本虫の発生が認められるほ場では、薬剤防除を行う。散布は、活動の鈍い早朝に一斉に行うのが効果的で、近隣作物へのドリフト（飛散）に注意する。
- (2) 次年度対策として、サトウキビの株出ほ場では、収穫後に畦間を耕うんし、卵塊を破壊する。
また、ふ化は短期間に起こる性質があるので、若齢幼虫の集団を発見したら、速やかに薬剤防除を行う。
- (3) サトウキビほ場周辺のイネ科雑草は若齢幼虫の好適な餌となるので、除草する。
- (4) イネ科牧草では、幼虫の多発生が見られる場合、刈り取り回数を増やすなどして物理的防除に努める。

6 参考文献等

沖縄県病害虫防除技術センター（2018）：平成30年度病害虫発生予察注意報第2号
日本農業害虫大辞典（2003）：P. 593



図1 サトウキビほ場内の成虫発生状況
注) 円内：成虫



図2 葉の食害状況

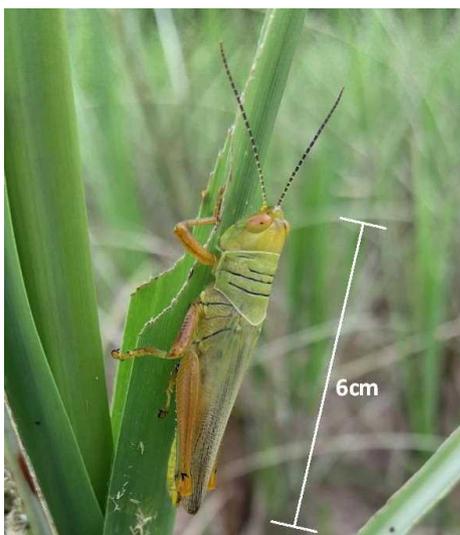


図3 成虫



図4 幼虫（老齢）